

『万葉集』に

桜田へ鶴鳴き渡る年魚市潟潮干にけらし鶴鳴き渡る  
 桜田へ鶴が鳴き渡っていく。年魚市潟は潮が引いた  
 らしい。鶴が鳴き渡るよ。

と、この辺りを詠んだ歌があります。この歌は七世紀こ  
 ろの高市連黒人の作です。ここに詠まれている「桜田」  
 は『和名類聚抄』に書かれた、尾張国愛智郡作良郷の  
 ことで、この辺りの海岸の様子を詠んだものであろうと  
 思われます。「年魚市潟」は『和名類聚抄』に尾張国愛  
 智郡阿伊智とあり、熱田から南区辺りの海岸に比定する  
 説などがあります。

また万葉集には、こんな歌もあります。

年魚市潟潮干にけらし知多の浦に朝漕ぐ舟も沖に寄る見  
 ゆ

年魚市潟も潮が引いているだろう。知多の浦に朝漕ぐ  
 舟も沖に寄っているのが見える。

【引用・参考資料】

- 『なごやの町名』名古屋市計画局／発行 1992
- 『和名類聚抄 名古屋博物館資料叢書二』名古屋博物館／編集・発行 1992
- 『万葉集 全訳注原文付』中西進／校注 講談社 1978